



山村国際高等学校第六十六回紫藤祭が、九月九日(土)・十日(日)の二日間にわたって開催された。今年の紫藤祭は生徒の要望により、二日間とも終日の開催となった。両日とも天気にも恵まれ、初秋を感じる青空の中、生徒の熱気ある発表や工夫を凝らした様々な催しが行われた。

各クラスの模擬店はいつもの通りの山村国際らしい活気でも満ち溢れていたもので、文化部では書道、イラスト、華道、写真部が日ごろの部活の成果である素晴らしい作品の数々を展示した。

生徒会の新しい試みとして、全生徒、全職員参加型のイベント

「僕、私の運命の人」を開催した。全生徒、全職員に同じラバーバンドを配布し、同じ番号の人を探すというもので、非常にシンプルだが、生徒からの評判は良く紫藤祭を盛り上げる良い企画となった。

ステージ発表では、バトン部、吹奏楽部、軽音部、ダンス部、よさこい部、英語部がたくさん観客に感動を与えた。また二日目の最後にはステージエンディングとして、全ステージ発表団体での夢のコラボレーションを実現させ、会場全体を一体感に包んだ。

今年の紫藤祭のテーマは『山村の国 Welcome to Eden』ですが、来校してくださったたくさんのお客さんを、山村国際という楽園でおもてなしができたのではないかと。

- 各賞の受賞は次の通り
- 紫藤賞 吹奏楽部
- ステージ賞 ダンス部
- 企画賞 写真部
- 装飾賞 三年六組
- クラスTシャツ賞 二年四組
- ポスター 神田 祐実

発行所
山村国際高等学校
坂戸市千代田1-2-23
☎ 049-281-0221

印刷所
有限会社 須賀印刷

http://www.yamamura-kokusai.ed.jp

校長 山田良秋

勉強とスポーツの伸びしろについて述べます。私は約三十年にわたって陸上競技に選手として取り組んできました。手前味噌ですが、その間に東日本実業団400m三位、三十八歳の時のマスタース陸上800mでは当時の日本記録を樹立しました。しかし長い競技生活を振り返ると、怪我や試合直前の風邪など決して順風満帆ではありませんでした。そして、気づくことがありました。それは、記録がほぼ二年を周期として伸びていたことです。要するに二年間記録は伸び続け、次の二年間は停滞するという、その繰り返しだったのです。そして伸びる年には何らかの精神的なきっかけがありました。長男の誕生、ライバルの存在、コーチの助言などです。それらが二年周期で訪れたのは偶然かも知れませんが、事実なのです。

同様なことは、運動だけではなく、脳細胞にも当てはまるのかも知れません。勉強には、スランプの時期もあります。身に覚えがある人もいます。しかし、耐えていれば必ず良い結果が伴うものです。

結局のところ、勉強もスポーツも自分の可能性を信じて、努力あるのみなのです。

本コラムの一環として「権威への抵抗」だが、近代日本においてこの趣旨に最も相応しい人物として、まず思い浮かぶのは、宮武外骨である。明治から昭和にかけて活動した反骨のジャーナリストで、生涯において入獄四回、罰金・発禁処分二十九回、自ら「余は危険人物なり」と称した。▲明治三十七年、日露戦争が勃発、言論統制・検閲制度が厳重になり、出版物は伏せ字だらけで国民には何が書かれているのか訳のわからない状態になった。外骨の代表作の一つである「滑稽新聞」には、それを逆手にとり、伏せ字の○の部分飛ばして読むと、以下のようになる文章を、開戦一ヶ月後に載せた。「今の軍事当局者はつまらぬことまでも秘密秘密というて新聞屋は聴いた事を載せられ得ずして丸々づくしの記事なども多い。是はつまり当局者の尻の穴の狭いはなしで度胸が無さ過ぎる様だ。吾輩が思うには軍は元来野蛮な事であるからその軍備を秘密にして敵の不敬をうつのもあながちがむべき事では…」▲今年には外骨生誕から百五十年目。表現の自主規制と称して「言葉狩り」を続けているマスコミの、何と多いことか。

蝸 螂

本コラムの一環として「権威への抵抗」だが、近代日本においてこの趣旨に最も相応しい人物として、まず思い浮かぶのは、宮武外骨である。明治から昭和にかけて活動した反骨のジャーナリストで、生涯において入獄四回、罰金・発禁処分二十九回、自ら「余は危険人物なり」と称した。▲明治三十七年、日露戦争が勃発、言論統制・検閲制度が厳重になり、出版物は伏せ字だらけで国民には何が書かれているのか訳のわからない状態になった。外骨の代表作の一つである「滑稽新聞」には、それを逆手にとり、伏せ字の○の部分飛ばして読むと、以下のようになる文章を、開戦一ヶ月後に載せた。「今の軍事当局者はつまらぬことまでも秘密秘密というて新聞屋は聴いた事を載せられ得ずして丸々づくしの記事なども多い。是はつまり当局者の尻の穴の狭いはなしで度胸が無さ過ぎる様だ。吾輩が思うには軍は元来野蛮な事であるからその軍備を秘密にして敵の不敬をうつのもあながちがむべき事では…」▲今年には外骨生誕から百五十年目。表現の自主規制と称して「言葉狩り」を続けているマスコミの、何と多いことか。

秋のレクリエーション

一学年 森林公園

十月五日(木)、一年生は森林公園へ行きました。当日は天候に恵まれ、朝の点呼後には班ごとに分かれて森林公園内を自由に散策しました。園内は時おり走る園内バスのエンジンの音以外は何の音も聞こえない、静寂に包まれた自然の中に溶け込む感じでした。歩いている途中、ぽんぽこマウンテンで遊ぶ生徒たちの元気の



いい声が響きわたり、こどもにかえったようにはしゃぐ姿も見られました。唯一のチェックポイントのハーブガーデンに立ち寄ったあとは皆でテーブルを囲みランチタイム。大きな木々に囲まれ、ひんやりとする空間は少し肌寒く感じましたが、弁当をひろげ楽しそうに食事をしていました。

日々の学校生活では勉強以外で目に映るのはスマホの画面、耳には音楽や映像にともなう音。そんな毎日の生活から解放されたれ、自然を満喫できた一日であったのではないのでしょうか。



ハロウィンムード漂う デイズニーシーで楽しさ満喫!



三学年 東京デイズニーシー

三年生は、十月五日(木)の秋のレクリエーションで東京デイズニーシーへ行きました。前日までの暑さとは対照的に、時折り涼しい風が吹き、日陰にいると肌寒さも感じる気温でしたが、ハロウィンムード漂うデイズニーシーでは、いつもと違った雰囲気を楽しむことができました。生徒たちは高校生活最後の学年行事を仲の良い友達と十分に満喫し、思い出をまたひとつ作ることができました。



修学旅行 in ニュージーランド

10月8日午後3時20分、定刻より30分早く成田空港に到着する。手荷物検査、入国審査を終え、バゲジダウンされた荷物を受け取り、それぞれの帰途につく。10月2日に日本を立ち、3泊4日のファームステイ、2日間のロトルア・オークランドでの見学を終え、無事帰国できたことに生徒を始め学年団全員がホッと胸をなで下ろした瞬間であった。

この一週間は住み慣れた土地、慣れ親しんだ家族を離れ、初めての土地、見ず知らずの家庭で、それまでにおそらく経験したこともないであろうさまざまな事柄に触れたのではないかと思う。良い思いばかりではないであろう。悪い、あるいはとても嫌な思いをしたことも多かったのではないかと想像する。しかしながら、帰国したその瞬間、みな「思い出」に変わっていく。それは、その一週間日本を離れている時には、日本での生活が「思い出」としてよみがえり、「早く帰りたい」と思ったことと似ているかもしれない。(旅に出ているときには、逆に普段の生活が、その旅先では「思い出」に変わってしまいます)できるならば、この一週間の修学旅行が、十年後、二十年後に上手に思い出してもらえたらとても嬉しく思う。

最後になってしまいましたが、この修学旅行に関わってくださった全ての人に、そして暖かく送り出し、迎えてくださった保護者の方々に深く感謝をして、この修学旅行を閉じたいと思います。



修学旅行 行程表

<2017年度 A団 10月1日(日) 発>

<2017年度 B団 10月2日(月) 発>

| 日次 | 月日(曜) | 地 名 | 現地時間 | 交通機関 | 予 定 |
|----|----------------------|---|--|-------------------------|---|
| 1 | 10/01(日) 10/02(月) | 若葉駅周辺 成田第一ターミナル | 12 : 30 15 : 30 18 : 30 | バ ス NZ90便 | 成田空港第一ターミナルへ 山村国際高等学校様専用カウンターにて出国手続き 空路、オークランドへ (機中泊) |
| 2 | 10/02(月) 10/03(火) | オークランド 各ファーム | 09 : 10 17 : 00 | バ ス | 到着後、オークランド市内へ 昼食：FOUTUNA オークランド博物館(零戦見学など) 見学後、ホストファミリーと対面、各家庭へ (ファームステイ泊) |
| 3 | 10/03(火) 10/04(水) | 各ファーム | 終 日 | | ファームステイプログラム(プログラムは各家庭により異なります) (ファームステイ泊) |
| 4 | 10/04(水) 10/05(木) | 各ファーム | 終 日 | | ファームステイプログラム(プログラムは各家庭により異なります) (ファームステイ泊) |
| 5 | 10/05(木) 10/06(金) | 各ファーム ロトルア | 午 前 11 : 00 13 : 00 15 : 00 18 : 30 | バ ス | ホストファミリーとお別れ アグロドームでの羊ショー鑑賞(約90分) 昼食：スカイライン希望(約90分) (ゴンドラ乗車) ロトルア湖、ガバメントガーデンを見学(約60分) 終了後、ホテルへ 夕食はマオリのハンギデ、イナー(約120分) (ロトルア：ステイマホテル レイク ロトルア泊) |
| 6 | 10/06(金) 10/07(土) | オークランド | 08 : 30 12 : 00 | バ ス 徒 歩 | バスにて一路、オークランドへ オークランド市内班別研修 (昼食は各自)(本部：OKギフトショップ) 夜はフェアウェノレディナー (ホリデイインオークランドエアポート泊) |
| 7 | 10/07(土) 10/08(日) | ホテル発 オークランド航空 成田第一ターミナル 成田第一ターミナル 若葉駅周辺 | 07 : 00 07 : 15 09 : 45 16 : 50 17 : 50 20 : 50 | バ ス NZ99便 バ ス | 朝食は空港にてお弁当を配布します (おにぎり) 空路、帰国の途へ 希望者送迎 |

カリフォルニア州、サンディエゴ市の スウィートウォーター高校と ヒルトップ高校の生徒との交流

9月22日(金)から9月25日(水)まで、カリフォルニア州、サンディエゴ市のスウィートウォーター高校とヒルトップ高校の生徒と日米交流が行われました。
先生2人と生徒20人が山村国際高校を訪れ、5日間一緒に過ごしました。



近年、漫画やアニメ、ゲームなどで日本の文化に興味がある外国人の若者が増えています。しかし、留学受入会社によるとホストファミリーを見つめるのは大変難しいそうです。「おもてなし」

という意識が高いため、なかなかホストする自信がないようです。ありがたいことに山村国際高校の保護者様から23組のホストファミリーとして留学生を受け入れてくださいました。ホストファミリーを引き受けてくださった保護者様のお陰で有意義な国際交流とすることが出来ました。5日間のプログラムは多くの生徒が交流できるように作りました。

金曜日に代表の生徒が若葉駅まで迎えに行き、学校でバディと対面しました。にこや



かに自己紹介を済ませるとバディやバディの家族ともにそれぞれの家庭に向かい、楽しい週末を過ごしました。

月曜日には歓迎会を開きました。最初に山田校長と本校代表生徒から英語による挨拶があり、次にビデオを使ってサンディエゴの両校から学校の紹介をしてもらいました。続いてよさこい部が見事な演舞を披露し、盛大な歓迎会となりました。

3日間、学校でアメリカの生徒たちはたくさんの本校生徒との交流を楽しみました。HRなどはバディのクラスで、昼は生徒ホール又は教室、放課後は色々な部活でたくさん生徒と交流できてお互いに国際理解が深まりました。プログラム内で次のことができました。

3年生の普通コースの生徒と一緒に体育館でバスケットとバレーボールを楽しみました。

2年生のライブデザインコースの生徒たちと一緒にあやとりやけん玉、折り紙など日本の伝統的な遊びをしました。また英語部がお手伝いしながら和紙作りを体験し、1年生の特別進学コースの生徒たちと一緒に書道にも挑戦しました。その後、図書室でお互いの学校生活を紹介し、習慣や文化の違いについて話し合いました。さらに2年生の



特別進学コースの生徒と日本やアメリカについてクイズダービーをしました。3年生のライブデザインコースで栄養選択をしている生徒とは調理実習を体験し、手巻き寿司や豆腐とわかめの味噌汁を作り、おいしそうに頬張っていました。

剣道部と居合道部が武道場でそれぞれの武道を紹介。アメリカの生徒たちは竹刀を振ったり模擬刀に触れたり日本の武道に興味津々でした。最後に名前の入った竹刀につける罫(つば)をプレゼントされ、とても喜んでいました。
あつという間の5日間。最後はバディとのサヨナラパー

ティです。本校の制服を着て大喜び。5日目ともなると気心も知れ、あちらこちらのグループから楽しそうな歓声が上がっていました。

そして全校生徒とのお別れ会。それぞれの高校と記念品の交換をし、再会を期して堅い握手を交わしました。そして最後は全国大会で立派な成績を残したダンス部『GOLD☆WINGS』による『魔球・サウスポー』が披露され、盛大に今年度の国際交流が終了しました。

同年代のアメリカ人といことで英語力上達へのモチベーションに繋がり、それが国際理解に大きな影響を与えることと思います。国際的に成功する人の話を聞くと十代の経験がきっかけになったということをよく聞きます。メール交換を続けている生徒も数多くいます。永遠の交流になればと思います。



入試広報部より

オープンキャンパス

●本年度のオープンキャンパスは、中学生全学年を対象に、七月八日(土)に開催した。



最初に聞いてもらうミニ説明会では、会場の視聴覚室に入りきらず二回目にまわってもらう状況であった。引き続き行った入試対策講座も満席になるほどの盛況ぶりであった。また、各部活、団体による講座や体験なども多くの方に参加していた。山村国際高校を知ってもらい楽しい時間を過ごしてもらうことができた。

体験部活・体験学習

●八月三日(水)、八月二四日(木)に体験部活・体験学習が行われた。九の講座が開講され、各講座多くの申し込みがあり活気ある二日間となった。



英会話教室では、ハーデイ先生、マツカーシー先生、ホドソン先生が参加者のレベルに合わせた楽しくアットホームな雰囲気の中、特別な時間を過ごすことができた。体験部活も各部活とも多くの中学生が参加して活気ある姿を見ることができた。人気講座としては全国大会出場者のダンス部で、今年も四十名近い参加者がいて体育館で所狭しと、高校生と共に踊っていた。

来年度以降も多くの中学生に参加してもらい、山村国際で学び活動していきたいと思ってもらえるよう企画内容を充実させていきたい。



普通救命講習会報告

倉林 明子

8月3日、8月18日、8月21日の3日間に分けて、坂戸鶴ヶ島市消防組合より救急隊の方を講師にお迎えして、本校武道場にて教職員59名がAEDの使用を含む心肺蘇生方法の講習を受けました。

講習では、まずはじめに坂戸鶴ヶ島管内の救急車の利用状況についての話しや、救急車が到着するまでに心肺蘇生をしていた場合としていないかった場合の救命率の違いについての話しなど、配付された資料を参考に、基本的な救命の知識について講義を受けました。その後二人ひと組になって、訓練用の人形を使った意識や呼吸の確認方法、心臓マッサージの方法や人工呼吸法の実技訓練を受けました。休憩をはさみ、実際にAED(デモ機)を使用した心肺蘇生方法の訓練を受けました。講習の終わりには質問タイムがあったのです

が「小児が倒れたときに近くに大人用のAEDしかなかった場合、使ってもいいのだろうか?」など、具体的な場面を想像しての質問も出ました。普通救命講習終了後、受講した教職員全員が普通救命講習受講証をいただくことが出来ました。教職員からは「心臓マッサージをしながら救急車が到着する6分は長く感じる。」などの訓練を通しての感想も聞かれました。また、講習証の裏面には2〜3年間で定期的に受講をするように書かれています。本校では今までも救命講習を実施していますが、意識の確認の仕事や心臓マッサージの方法が年々微妙に変更されています。消防署の方に聞く

と「ガイドラインが改定されるのに合わせて、救急救命処置の方法も少しずつ変わっている。」とのことでした。定期的

的に受講して最新の知識を得ることは重要なことだと思いました。

本校にはAEDが2台設置されており、1台は戸宮グラウンド、1台はA館1階職員玄関前にあります。本校のAEDは設置以来幸いにも使用したことはありません。これからも使用する機会がないことを願うばかりです。しかし、いつ不測の事態が起こるか分かりません。いざというときのために、日頃からこういった技術を身につけておくことは大変重要なことだと感じました。



事務室だより

事務長 師岡 昇

皆様には、日ごろより本校の教育活動に対し、格別のご理解ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

本年度の事務室事業も、皆様のご理解、ご協力をいただき順調に推進されており心からお礼申し上げます。

これからは、年度の総仕上げに向けて、気分も新たに仕事に取り組み姿勢です。

本校においても、学校経営の合理化・効率化や処理体制の充実ということが大いに期待されている所ですが、学校を取り巻く環境変化が著しく、学校現場には様々な風が吹き込んでいます。今や学校事務の変革期であり、今後どのように対応していくのかが問われる時代となっております。そのため皆さんと知恵を出し合い、工夫・努力することが重要だと思います。知恵を集結し、問題解決に向けて協議を進めることができれば、より良い解決策を導き出し、学校運営が出来ると思います。

職場や保護者・地域間とのコミュニケーションを活発に行い、情報の共有化を図ることが、皆様の元気や職場の活気ある原動力につながると思います。

現在事務室では、皆様に今まで提出頂きました「授業料軽減」

「就学支援金」奨学のための給付金」について、国及び県に提出し、結果を待っている状態です。

この給付金申請について、「提出の確認をしたい」「出し忘れてしまい、今から提出したい」もしくは「家計の急変があった」などについてご連絡を頂ければ早急に対応致しますのでお気軽に事務室までお電話ください。

順調に処理が完了し、県から補助金が出ましたら、現在届け出のある授業料振替口座に振込処理をさせて頂く予定です(年度末に振替予定)。

届け出口座の変更等ありましたら、早めにお知らせ下さい。

本校での就学支援金及び父母負担軽減事業申請は生徒が学校で安心して勉学・部活動に励めるよう、この事業に、私学の中でも熱心に取り組んでいる学校です。

遠慮せず相談を積極的にお願いいたします。

(TEL)049128110221
・山村国際高等学校)